

第2章

子どもの未来を創り

豊かな文化を育むまち すずか



◆第2章体系図

めざすべき都市の状態	施策	単位施策
05 みんなが支え合い、安心して子育てしていること	051 安心して結婚・出産・子育てができる環境づくり	0511 産み育てやすい地域・社会環境の構築
		0512 結婚・妊娠・出産支援と子育て家庭への支援
		0513 ライフステージに応じた適切な支援の実施
	052 子どもの保育環境と幼児教育環境の整備	0521 就学前児童の教育・保育環境の整備
		0522 放課後児童の保育環境の整備
06 家庭、地域、学校が連携して、全ての子どもが楽しく学べる教育環境になっていること	061 社会を生き抜く子どもの育成	0611 グローバルな視点で主体的に学び、社会に発信する子どもの育成
		0612 基礎・基本を身に付け、自ら表現する子どもの育成
		0613 豊かな感性を持ち、自律した子どもの育成
		0614 健康への意識を高め、健やかな体を持つ子どもの育成
		0615 命を尊重し、人の多様性を認め合える子どもの育成
	062 教育環境の充実	0621 学校とともに子どもを育む地域づくりの推進
		0622 楽しく安心して学べる教育環境づくりの推進
		0623 地域資源を生かした学習環境の充実
07 人と文化を育み、心豊かに過ごしていること	071 自ら学び、広げる文化と生涯学習活動の推進	0711 市民参加による芸術・文化活動の推進
		0712 学び、生かす生涯学習の推進
		0713 図書サービスの充実
	072 文化財の保護と活用の推進	0721 文化財の発掘・調査と保存
		0722 文化財を活用したまちづくり
08 スポーツを観て、参加して、楽しんでいること	081 スポーツ(運動)を通じた豊かさの醸成	0811 市民参加型スポーツの推進
		0812 快適に利用できる運動施設の整備・運営

めざすべき都市の状態〇5

「みんなが支え合い、安心して子育てしていること」

■成果指標1：子育てについて相談ができる場所や機会を知っている市民の割合

現状値 (2015年度)	43.9%	目標値 (2023年度)	75.0%
-----------------	-------	-----------------	-------

現 状 認 識

社会経済環境の急激な変化を受けて、少子化の進展、ひとり親家庭などの増加、地域のつながりの希薄化、児童虐待、子どもの貧困、女性の社会進出の増加、ワーク・ライフ・バランスの不均衡が起こり、子育ての悩みや不安を抱える保護者が増加しています。

そのような中、保育所や放課後児童クラブは、安心して子どもを預けることができる施設として、需要が非常に高くなっています。

また、現在41の公私立保育所をはじめ、公私立幼稚園や認可外の保育施設、各小学校区に設置された放課後児童クラブなどで、様々な教育・保育ニーズに対応していますが、特に、若い世代においてライフスタイルの多様化や社会経済状況の影響により、結婚・出産・子育ての希望がかないにくい状況となっており、晩婚化や晩産化が進展しています。

将来展望を踏まえた課題

本市では、私立保育所の充実もあり、様々な保育需要に対応してきましたが、今後は、従来の保育に加え、障がい児、病児・病後児、休日・一時預かりなど多様な保育ニーズが一層増えるものと考えられます。

一方では、幼稚園に対するニーズが減少しており、既に本市の公立幼稚園については、統廃合が進んでいる中、就学前教育・保育の環境整備の充実を図る必要があります。

また、核家族化の進展や地域とのつながりの希薄化などの影響で、子育ての孤立化にも対応する必要があります。

さらに、少子化の解消に向けて、結婚から妊娠、出産、子育てなど各段階に応じた支援の充実が課題となっています。

行政の使命（ミッション）

子どもが心身ともに健康に育ち、誰もが安心して結婚や妊娠、出産、子育てができるよう、全ての家庭を対象に妊娠・出産期から切れ目のない支援を行います。

また、きめ細かい相談体制、子育て情報の提供の充実を図りながら、家庭、地域、学校などが連携し、子育てしやすい環境を構築します。

施策－０５１：安心して結婚・出産・子育てができる環境づくり

－担当部：子ども政策部－

【施策の概要】

家庭環境や社会環境の変化に対応できるよう、子育てを地域で支える環境や、自助・共助に基づき、より身近な場所での支援体制を構築するとともに、結婚、出産、子育て、教育などに関する情報交換や相談ができる環境整備と支援を受けられる場所・機会の充実に努めます。

◇単位施策－０５１１：産み育てやすい地域・社会環境の構築

－担当課：子ども政策課－

目 的		地域のつながりが希薄化する中、子育てのストレス軽減や孤立感の解消などの不安要因を取り除くために、子育て支援拠点施設に親子が気兼ねなく集い、利用者が子育てに関する知識や情報を得ることができる環境の整備を行うなど、安心して子育てができるための自助、共助の仕組みを作ります。		
概 要		・地域の関係が希薄になる中で、子育て中の親同士、あるいは世代を超えた人と人を結び付けることにより、地域の子育て力を高めます。 ・地域交流やネットワークづくりに積極的に取り組みます。 ・家庭や地域において、自助・共助を基本として、安心して子育てができるよう、地域子育て支援拠点施設などを核にした人材育成、啓発活動、環境整備をします。		
成果指標	指標名	地域子育て支援拠点施設※利用者数	目標値 (2019年度)	55,000人
	指標設定理由	地域子育て支援拠点施設の利用者が増加することは、子育てに関する知識・情報が共有され、安心して家庭や地域で子育てが可能となる環境づくりに寄与するため。	現状値 (2015年度)	50,805人 (2014年度)
単位施策を推進する個別の計画				

※地域子育て支援拠点施設…乳幼児及び保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言などの事業を行う施設のこと。

◇単位施策－０５１２：結婚・妊娠・出産支援と子育て家庭への支援

－担当課：子ども政策課－

目 的		結婚への支援，出産を望む夫婦や子育て中の家庭への支援を行い，個人や家庭が置かれた状況にかかわらず，結婚願望が充足され，安心して子どもを産み育てられるような環境を整備します。		
概 要		・結婚，出産，子育てに対する情報を発信することで，結婚以降の不安感の軽減と子育て世代が子育てしやすい環境づくりを促進します。 ・婚活情報の提供，不妊治療への助成，子育て支援センターの各種事業などを実施し，安心して子育てなどができる支援体制を構築します。		
成果指標	指標名	年間出生数	目標値 (2019年度)	1,800人
	指標設定理由	年間出生数が増加することは，安心して結婚，出産ができる環境が整備されていることにつながるため。	現状値 (2015年度)	1,761人 (2014年度)
単位施策を推進する個別の計画				

◇単位施策－０５１３：ライフステージに応じた適切な支援の実施

－担当課：子ども家庭支援課，子ども政策課－

目 的		子どもと子育て世代のライフステージに応じて，心身ともに健康な状態で子育てができるようにします。		
概 要		・子どもや子育て世代のライフステージや家庭環境に対応した相談・支援を実施します。 ・発達，就学，教育の相談に応じ，課題などを早期に把握し，早期対応につなげます。 ・就学前から，集団適応に困難を抱える児童を早期に発見するため，集団適応健診（５歳児健診）を行い，支援につなげます。 ・相談支援対応職種を増やし，様々なニーズに対応できるようにします。 ・虐待の早期発見・早期対応，また，子どもや子育てに関する不安を解消し，安心・安定して子育てができる支援体制を構築します。		
成 果 指 標	指標名	相談支援対応延べ件数	目標値 (2019年度)	18,000件
	指標設定理由	相談支援対応延べ件数が増えることは，ライフステージに応じたニーズに適切かつ柔軟に対応し，より多くの子どもと子育て世代の不安解消につながるため。	現状値 (2015年度)	13,269件 (2014年度)
単位施策を 推進する 個別の計画		第３次子どもの健全育成推進基本計画		

施策－０５２：子どもの保育環境と幼児教育環境の整備

－担当部：子ども政策部－

【施策の概要】

幼児期の学校教育や保育，地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進めるためにスタートした子ども・子育て支援新制度に基づいて，制度・体制の整備を行うとともに，就学前教育・保育施設の長寿命化，適正配置などを図ります。

また，保護者や地域，関係機関と連携して，教育・保育環境の向上を支援します。

◇単位施策－０５２１：就学前児童の教育・保育環境の整備

－担当課：子ども政策課，子ども育成課－

目 的		子育てと仕事の両立ができる環境を整備するため，適切な教育・保育環境を確保し，質の高い教育・保育サービスを総合的に提供することで，就学前児童の健やかな成長を育みます。		
概 要		・幼保一元化を視野に入れた公立幼稚園と公立保育所の再編整備を進めるとともに，施設の長寿命化などを図ります。 ・利用者のニーズや設置者の意向，地域性などを踏まえ，鈴鹿市子ども・子育て会議の意見を聴きながら幼保一元化を推進します。 ・教育・保育の質の向上のため，幼稚園教諭・保育士の人材確保及び人材育成を進めます。 ・一時預かり事業などの特別保育事業の充実を図るとともに，子育て支援拠点施設の整備を進めます。		
成 果 指 標	指標名	就学前児童総数に対して，教育・保育施設※を希望し利用している割合	目標値 (2019年度)	65.0%
	指標設定理由	就学前児童総数に対して，教育・保育施設を希望し利用している割合が増加することは，子育てと仕事の両立ができる環境が整備され，質の高い教育・保育サービスの提供につながるため。	現状値 (2015年度)	62.9% (2015.4.1現在)
単位施策を推進する個別の計画		鈴鹿市子ども・子育て支援事業計画 鈴鹿市立幼稚園再編整備計画		

※教育・保育施設…保育所（園），幼稚園，認定こども園のこと。

◇単位施策－０５２２：放課後児童の保育環境の整備

－担当課：子ども政策課－

目 的		放課後児童クラブの設立・運営を支援し，就学児童の安全・安心な放課後の生活の場を確保します。		
概 要		・児童とその保護者の希望に沿えるよう，放課後児童クラブを整備します。 ・保護者や地域，関係機関と連携した放課後児童クラブの設立や運営などを支援します。 ・安全・安心な放課後児童クラブの施設環境を整備します。 ・一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備を進めます。		
成果指標	指標名	施設整備が完了した放課後児童クラブの割合	目標値 (2019年度)	100%
	指標設定理由	放課後児童クラブの環境整備が進むことは，安全・安心な放課後の生活の場の確保につながるため。	現状値 (2015年度)	77%
単位施策を推進する個別の計画		「放課後子ども総合プラン」に基づく鈴鹿市行動計画		

めざすべき都市の状態〇6

「家庭，地域，学校が連携して，全ての子どもが楽しく学べる教育環境になっていること」

■成果指標1：「学校に行くのは楽しい」と回答した児童生徒の割合

現状値 (2015年度)	86.5% (2014年度)	目標値 (2023年度)	90.0%
-----------------	-------------------	-----------------	-------

■成果指標2：学校教育活動や地域の子育て活動に参加している市民の割合

現状値 (2015年度)	14.4%	目標値 (2023年度)	20.0%
-----------------	-------	-----------------	-------

現 状 認 識

急激な少子化・高齢化，グローバル化の進展など，変化の激しいこれからの社会を生きる力を，より一層育むことをめざし，様々な教育改善が取り組まれています。

また，社会性や自立心などの子どもの育ちや基本的な生活習慣などに課題を抱える家庭は多く，家庭教育が困難な状況にあり，さらに，コミュニティが衰退の一途をたどる中，地域での教育が困難な状況です。

将来展望を踏まえた課題

子どもたちや教育を取り巻く環境が急激に変化する中であって，一人ひとりの能力を最大限に高め，未来への希望を育むとともに，社会を生きる力，特にコミュニケーション能力・思考力・判断力・表現力など，物事を積極的に実践する力の養成に向けて教育の充実を図る必要があります。

また，家族形態の変化などから社会の価値観が多様化する中，子どもたちの豊かな育ち，健全な育成を支えるための学校づくりを推進するためには，地域ぐるみで子どもたちを育てる環境を整備する必要があります。

行政の使命（ミッション）

変化の激しい社会を生きる力を育む教育内容を展開するとともに，技術革新に対応した教育環境を整備します。さらに，家庭や地域とともにある学校づくりを推進することにより，将来，本市の成長を支える人材を育成する教育を実現します。

施策－０６１：社会を生き抜く子どもの育成

－担当部：教育委員会事務局－

【施策の概要】

多様で変化の激しい社会の中で、個人の自立と協働を図るための主体的・能動的な力である、社会を生きる力を養成するため、知（確かな学力）・徳（豊かな心）・体（健やかな体）の調和が取れた教育内容を展開するとともに、グローバル化・情報化に対応した教育を推進します。

◇単位施策－０６１１：グローバルな視点で主体的に学び、社会に発信する子どもの育成

－担当課：教育指導課－

目 的		グローバル化やＩＣＴによる情報化などの進展により、価値観の多様化が一層進行する社会において、人々と協働し、主体的・能動的に学び続けるとともに、郷土を愛し、積極的に社会に参画する子どもたちを育成します。		
概 要		・様々な国の人々と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度及び基礎的英語力やＩＣＴを効果的に活用する力の育成に資する取組を推進します。 ・子どもたちが分かりやすく、一人ひとりの能力や特性に応じた学びを行い、子どもたちが相互に学び合う協働学習を推進します。 ・環境への負荷が少なく持続可能な社会を構築するため、人間と環境との関わりについて理解を深める取組を推進します。 ・学校・家庭・地域の連携により、社会参画意識や公共の精神など、主権者として社会で自立するための基礎的な能力や態度の育成に資する取組を推進します。 ・主体的・協働的に学ぶ学習、いわゆる「アクティブ・ラーニング※」を取り入れた授業改善を推進することで、学びの質を高めます。		
成果指標	指標名	全国学力・学習状況調査において、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童生徒の割合	目標値 (2019年度)	96.0%
	指標設定理由	人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒が増えることは、将来、積極的に社会に参画する人材の増加につながるため。	現状値 (2015年度)	94.1%
単位施策を推進する個別の計画		鈴鹿市教育振興基本計画		

※アクティブ・ラーニング…教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法のこと。

◇単位施策－０６１２：基礎・基本を身に付け、自ら表現する子どもの育成

－担当課：教育指導課，教育支援課－

目 的		夢に向かって自らの進路を切り拓いていくための基礎となる確かな学力を培い，自分の考えを相手に伝わるように表現することのできる子どもたちを育成します。		
概 要		・発達段階に応じた体系的なキャリア教育※を通して，「生き方・考え方」を培い，主体的な進路選択を行うために必要となる基礎的態度・能力の育成を図ります。 ・学ぶ意欲を高め，基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成します。 ・言葉を学び，感性を磨き，表現力を高め，想像力を豊かなものにし，人生をより深く生きる力を身に付けていくために読書活動を推進します。 ・外国籍の子どもをはじめとする子どもの日本語能力に応じて，日本語で学習活動に参加する力を育成します。		
成果指標	指標名	全国学力・学習状況調査において，国語または算数（数学）いずれかの結果で，全国の平均正答率を，基礎知識を問う問題，知識の活用力を問う問題ともに上回る学校の割合	目標値 （2019年度）	50%
	指標設定理由	基礎的な学力とそれを活用する力を身に付けることは，子どもたちが社会を切り拓く，生きる力の育成につながるため。	現状値 （2015年度）	25%
単位施策を推進する個別の計画		鈴鹿市教育振興基本計画		

※キャリア教育…一人ひとりの社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，キャリア発達を促す教育のこと。

◇単位施策－０６１３：豊かな感性を持ち、自律した子どもの育成

－担当課：教育指導課，教育支援課－

目 的		正しい判断力を身に付け、一人ひとりが自律してよりよく生きるとともに、心を動かす体験などを通して、豊かな感性を持つ子どもたちを育成します。		
概 要		・家庭や地域と連携し、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進します。 ・芸術活動を通じて、子どもの感性や創造性を育み、豊かな情操を養います。 ・適切な判断力と責任を持って情報を扱い、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度を育成するための情報モラル教育を推進します。 ・一人ひとりの子どもたちの健全な成長を促し、自己実現を図っていくための自己指導能力を育成します。		
成果指標	指標名	全国学力・学習状況調査において、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した児童生徒の割合	目標値 (2019年度)	60.0%
	指標設定理由	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合が高まることは、正しい判断力を身に付け自律して生きる児童生徒の育成につながるため。	現状値 (2015年度)	36.7%
単位施策を推進する個別の計画		鈴鹿市教育振興基本計画		

◇単位施策－０６１４：健康への意識を高め、健やかな体を持つ子どもの育成

－担当課：教育指導課，学校教育課－

目 的		豊かな人生を送るための基礎となる体力づくりのための運動に親しむとともに、健康な体を作るための食について正しい知識を持ち、望ましい食生活を確立できる児童生徒を育成します。		
概 要		・体育や保健体育科の授業改善や運動の日常化の取組などを進めることにより、子どもたちが体を動かすことを「楽しい」と感じ、運動やスポーツに親しみ、体力の向上につながる取組を推進します。 ・子どもたちが、健康安全について科学的に理解し、自らの健康を適切に管理し改善していこうとする取組を推進します。 ・学校における保健指導の充実を図るとともに、学校医や医療機関との連携を進めます。 ・学校給食における地産地消を推進するとともに、子どもたちが健全な食生活を実践できるよう、栄養教諭を中核とした家庭・地域・学校の連携による食育※の推進体制を構築します。 ・学校給食を通して、子どもの心身の健全な発達と食に関する正しい理解と適切な判断力を養います。		
成果指標	指標名	全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、小中学校別、男女別の全３２種目のうち、全国平均値を上回る種目の割合	目標値 (2019年度)	50.0%
	指標設定理由	子どもたちの活力の源である体力が向上することは、子どもたちの意欲や気力といった精神面の充実や健康維持につながるため。	現状値 (2015年度)	15.6%
単位施策を推進する個別の計画		鈴鹿市教育振興基本計画		

※食育…生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。

◇単位施策－０６１５：命を尊重し、人の多様性を認め合える子どもの育成

－担当課：教育支援課，教育指導課－

目 的		全ての子どもたちに、人の多様性を認め合うことができる人権感覚や意識を身に付けさせることによって、差別やいじめを許さず、多様な人々とともに生きていこうとする態度を育成します。		
概 要		・互いを信頼し、受容し合える豊かな人間関係を形成し、人権尊重の意識と実践力を育成する人権教育を推進します。 ・いじめや暴力を許さない子どもたちを育成します。 ・関係機関と連携した途切れのない支援体制を構築するとともに、障がいの有無にかかわらず尊重し合える態度の育成をめざした特別支援教育を推進します。 ・文化や価値観の多様性について理解し、ともに生きる社会を実現しようとする実践力を育む多文化共生教育を推進します。 ・安全に関する基礎的・基本的事項を系統的に理解し、思考力、判断力を高め、実践的な能力や態度、望ましい習慣の形成を図ります。 ・関係機関と連携し、不登校となっている児童生徒の早期発見・早期対応に取り組むとともに、学校生活への復帰や、自立支援を行います。		
成果指標	指標名	全国学力・学習状況調査において、「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合	目標値 (2019年度)	85.0%
	指標設定理由	児童生徒の自己肯定感の高まりは、自分を大切にする意識や態度につながり、他者を大切にする意識や態度にもつながるため。	現状値 (2015年度)	70.6%
単位施策を推進する個別の計画		鈴鹿市教育振興基本計画 鈴鹿市人権教育基本方針 鈴鹿市いじめ防止基本方針		

施策－０６２：教育環境の充実

－担当部：教育委員会事務局，文化スポーツ部－

【施策の概要】

子どもたちの豊かな育ち，健全な育成を支えるための学校づくりを推進するためのコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）などや，家庭，地域，幼稚園，小学校及び中学校がネットワークを築き，地域ぐるみで子どもたちの教育に取り組みます。

さらに，社会の変化や技術革新に対応し，安全・安心な教育環境を整備するとともに，子どもたちの将来が，家庭の経済的な環境などによって左右されることのないよう必要な支援を行うことにより，子どもたちの学びと成長を支えます。

◇単位施策－０６２１：学校とともに子どもを育む地域づくりの推進

－担当課：教育支援課，教育指導課－

目 的		子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し，教育課題が多様化・複雑化する中で，学校だけでなく，家庭，地域，学校が連携して課題や目標を共有し，一体となって，子どもたちの成長を支える教育を実現します。		
概 要		・幼小中が連携し，幼稚園入園から中学校卒業までの連続する育ちを踏まえた教育活動を展開することで，小学校から中学校への滑らかな接続を図り，子どもたちの豊かな心の育成と学力向上に向けた取組を推進します。 ・コミュニティ・スクールを活用した保護者（家庭）・地域・学校が一体となった学校づくりを推進します。 ・児童生徒の生活背景が複雑化・多様化する中，家庭・地域・学校・関係機関の連携を強化し，教育相談体制及び就学支援体制の充実を図ります。 ・就学前の保育・教育方針，指導及び研修の充実を図ります。		
成 果 指 標	指標名	学校の教育活動への参加に満足している保護者・地域住民の割合	目標値 (2019年度)	70.0%
	指標設定理由	学校の教育活動に参加し，満足している保護者・地域住民の割合が増えることは，ネットワークの強化につながるため。	現状値 (2015年度)	51.9% (2014年度)
単位施策を 推進する 個別の計画		鈴鹿市教育振興基本計画		

◇単位施策－０６２２：楽しく安心して学べる教育環境づくりの推進

－担当課：教育総務課，学校教育課，教育指導課，
教育支援課－

目 的		子どもたちが楽しく安心して学べるよう，様々な教育環境を整え，また，学びの環境を保障することにより，本市の成長を支える人材を育成します。		
概 要		・子どもたちの支援や学びの充実をめざし，小中学校へ必要に応じ，人的配置を行います。 ・学校施設の老朽化などに対応し，安全面・衛生面・機能面の充実を図ります。 ・技術革新に伴う，ＩＣＴ教育環境の整備を推進します。 ・通学路を含む学校における安全を確保するとともに，危機管理体制を充実します。 ・就学援助制度や奨学金制度を実施し，保護者や子どもの経済的な負担軽減を図ります。 ・外国人児童生徒の教育を受ける権利を保障するため，関係機関などと連携し，就学や進路選択に関わる支援を推進します。 ・望ましい集団規模を確保するため，学校規模の適正化や適正配置について検討を行います。 ・教職員のキャリアステージ※に応じた研修などを充実し，継続的な資質向上を図ります。		
成果指標	指標名	学校施設の整備に満足している保護者・地域住民の割合	目標値 (2019年度)	50.0%
	指標設定理由	学校施設の整備に対する満足度が高まることは，子どもたちの学習環境の向上を示すこととなるため。	現状値 (2015年度)	30.2% (2014年度)
単位施策を推進する個別の計画		鈴鹿市教育振興基本計画		

※キャリアステージ…経験年数に応じて求められる資質能力の段階のこと。

◇単位施策－０６２３：地域資源を生かした学習環境の充実

－担当課：文化振興課－

目 的		地域社会との連携，支援により，子どもたちの家庭や地域における学習環境を充実します。		
概 要		・保護者や地域住民の交流を通して進める学習や体験活動により，家庭教育に関する理解を深めます。 ・地域住民の協力を得て，放課後などや学校の夏季休業日などを活用し，子どもたちに多様な体験，学習活動の機会と場を提供します。 ・社会教育関係団体を支援し，地域の学習環境の充実を図ります。		
成果指標	指標名	地域のボランティアが，主体となって企画，運営する放課後子ども教室，土曜体験学習の教室数（累計）	目標値 （2019年度）	11教室
	指標設定理由	多くの小学校区において放課後子ども教室，土曜体験学習の教室数が増えることにより，子どもたちの学習機会が増えることにつながるため。	現状値 （2015年度）	7教室
単位施策を推進する個別の計画		「放課後子ども総合プラン」に基づく鈴鹿市行動計画		

めざすべき都市の状態〇7 「人と文化を育み、心豊かに過ごしていること」

■成果指標1：地域の芸能や祭りを含む芸術・文化活動，生涯学習活動に参加している市民の割合

現状値 (2015年度)	32.6%	目標値 (2023年度)	40.0%
-----------------	-------	-----------------	-------

現 状 認 識

市民が文化・学習活動を行う場となる施設が老朽化しています。施設の長寿命化への対応や維持・管理コストの削減が求められています。

施設の利用者が高齢化，固定化してきており，新規利用者，若い世代の利用者が減ってきています。

文化・学習活動から学んだことを地域づくり・人づくりに生かしきれていない状態です。

将来展望を踏まえた課題

施設の老朽化に伴う改修を計画的に行い，施設の維持・管理コストの削減方法を考える必要があります。

魅力的な活動内容を提供するとともに，今後は学んだことをアウトプットできる環境整備に力を入れていく必要があります。

行政の使命（ミッション）

市民が多様な芸術・文化活動，生涯学習活動を行えるようなハード環境を整え，関係団体などと連携しながら，全てのライフシーンに応じた魅力あるソフト事業を市民に提供します。

また，身に付けた活動の成果を，まちの活性化につなげられる仕組みづくりと担い手育成を行います。

施策－０７１：自ら学び、広げる文化と生涯学習活動の推進

－担当部：文化スポーツ部－

【施策の概要】

文化活動へ参加する機会や場を提供します。

様々なライフステージの市民がつながり、学べる機会と場を整えます。

市民が自ら学び、成果やつながりを地域に広げられるようにします。

◇単位施策－０７１１：市民参加による芸術・文化活動の推進

－担当課：文化振興課－

目 的		市民が、文化事業に参加し、芸術文化を楽しむとともに、地域に伝え、広げられるようにします。		
概 要		- 文化団体との協働や活動支援を通して、誰でも参加し楽しめる文化に触れる機会と場を提供します。 - 文化活動を通じて得た成果を活用して、積極的に地域づくりができる環境を整えます。 - 施設の長寿命化とバリアフリー化などの整備を図り、効率的、効果的に運営します。		
成果指標	指標名	鈴鹿市及び鈴鹿市文化振興事業団、鈴鹿市芸術文化協会が行う文化事業への参加者数	目標値 (2019年度)	30,000人
	指標設定理由	文化事業への参加者数を増やすことは、その後の文化活動、地域づくりにつながるため。	現状値 (2015年度)	26,781人 (2014年度)
単位施策を推進する個別の計画		第2次鈴鹿市文化振興ビジョン		

◇単位施策－０７１２：学び、生かす生涯学習の推進

－担当課：文化振興課－

目 的		市民が生涯にわたり主体的に学習活動に取り組めるように、学習の場の情報や学習機会を提供します。		
概 要		・市民の多様な学習ニーズに応えるため、学習の場の情報を提供します。 ・学官連携による専門的な学習事業を実施します。 ・社会参加への第一歩となる成人式を、新成人の主体的な企画運営により実施します。		
成 果 指 標	指標名	市民が自ら参加した生涯学習の講座での満足度	目標値 (2019年度)	100%
	指標設定理由	全ての受講者が満足できる学習内容にすることは、多くの市民が興味を持って主体的に学べる場の提供につながるため。	現状値 (2015年度)	94% (2014年度)
単位施策を推進する個別の計画				

◇単位施策－０７１３：図書サービスの充実

－担当課：図書館－

目 的		市民が読書に親しみ，知識や教養を高める環境を整備します。		
概 要		・蔵書を充実することにより，読書に親しみ，楽しむ機会と場を提供します。 ・読書を通じて得た知識・教養・技術を生かした地域づくりの支援をします。 ・施設を効率的に運営するとともに，長寿命化を図ります。 ・地域の特性に合わせた配本サービスを提供するため，地域サービス事業の再構築を図ります。 ・読み聞かせボランティアの育成や学校図書館との連携など，子どもへの読書支援を行います。		
成 果 指 標	指標名	市民一人当たりの年間貸出冊数	目標値 (2019年度)	3.5冊
	指標設定理由	市民一人当たりの年間貸出冊数が増加することは，多くの市民が読書に親しみ，知識や教養が深まることにつながるため。	現状値 (2015年度)	3.1冊 (2014年度)
単位施策を 推進する 個別の計画		鈴鹿市立図書館サービス方針 鈴鹿市立図書館サービス方針実施計画		

施策－０７２：文化財の保護と活用の推進

－担当部：文化スポーツ部－

【施策の概要】

現存する文化財の発掘・調査を行い、次世代に向けての適切な保存を図ります。

地域資源である文化財の積極的な活用を図り、郷土の歴史及び文化に触れる機会を設定します。

文化財の保存及び活用につながる交流活動を通して、地域貢献できる人材の育成に取り組めます。

◇単位施策－０７２１：文化財の発掘・調査と保存

－担当課：文化財課－

目 的		市内に残る貴重な文化財の発掘・調査を進め、次世代に向けて文化財を適切に保存します。		
概 要		・地域の文化財を掘り起こし、学識経験者の協力を得て、文化財調査を進めます。 ・貴重な文化財を次世代に継承するため、文化財指定を行います。 ・学識経験者からの指導助言に基づき、文化財の修復を進めます。 ・文化財所有者及び管理者との連携を図り、長期的な保存に向けた管理を進めます。		
成 果 指 標	指標名	指定文化財の件数（累計）	目標値 （2019年度）	100件
	指標設定理由	文化財指定を行うことは、法令規制の面で、貴重な文化財の価値を損なうことなく、確実に長期的な保存が図られるため。	現状値 （2015年度）	96件
単位施策を推進する個別の計画		第2次鈴鹿市文化振興ビジョン 史跡伊勢国分寺跡及び周辺整備基本計画 史跡伊勢国分寺跡整備基本計画 史跡伊勢国府跡保存管理計画		

◇単位施策－０７２２：文化財を活用したまちづくり

－担当課：文化財課－

目 的		地域資源の文化財を活用し，文化財に親しむ機会を提供するとともに，文化財を生かした世代間の交流が行われる魅力ある地域づくりを展開します。		
概 要		・特別展・企画展の開催や，発掘調査の説明会などを通して，文化財に親しむ機会を提供します。 ・ワークショップなどの開催により，文化財の魅力を分かりやすく伝えます。 ・文化財の保存や活用に関わる交流を通して，地域に貢献できる担い手を育てます。 ・地域に残る歴史・文化遺産を発信し，交流人口の増加を図ります。		
成果指標	指標名	博物館・資料館・記念館などの来館者数	目標値 (2019年度)	32,000人
	指標設定理由	博物館や資料館・記念館などの来館者数が増加することにより，郷土史や文化財への関心が高まり，知識が深まることで，文化財を生かした魅力ある地域づくりにつながるため。	現状値 (2015年度)	30,850人 (2014年度)
単位施策を推進する個別の計画		第２次鈴鹿市文化振興ビジョン		

めざすべき都市の状態〇８

「スポーツを観て、参加して、楽しんでいること」

■成果指標１：スポーツ（運動を含む）をしたり、観戦やボランティアの形でスポーツに関わっている市民の割合

現状値 (2015年度)	29.9%	目標値 (2023年度)	35.0%
-----------------	-------	-----------------	-------

現 状 認 識

スポーツは、従来からの競技スポーツのみならず、健康寿命の延伸につながるような運動機会の提供、スポーツツーリズムを通じた地域の活性化まで非常に多様化しつつあります。また、市が管理する運動施設においては、老朽化が進み、施設の長寿命化やバリアフリー化も求められています。

2018（平成30）年度には、全国高等学校総合体育大会が、2021（平成33）年度には、国民体育大会の開催が三重県で予定されています。また、2020（平成32）年度には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されるなど、市民のスポーツに対する関心もますます高まると考えられます。

将来展望を踏まえた課題

市民がスポーツ（運動）に親しむ機運が高まる中で、スポーツ（運動）に対する様々なニーズを把握し、「健康づくり」や「生きがいづくり」につながる場を提供するとともに、今後開催が予定されている大規模スポーツイベントを活用し、あらゆる方面にその効果を波及させていく必要があります。

行政の使命（ミッション）

スポーツ団体及び地域などと連携を深め、大規模なスポーツイベントの開催を契機に市民が、スポーツ（運動）に気軽に参加し、親しめる環境の支援・整備を進め、スポーツ（運動）をしたり、観たり、支える機会を拡充し、健康で生きがいのある生活が送れる市民を増やします。

そのためにも、各種スポーツ団体と連携し、市民が主体的に参加できる仕組みづくりを行い、市内運動施設の計画的な整備を進めて行きます。

施策－０８１：スポーツ（運動）を通じた豊かさの醸成

－担当部：文化スポーツ部－

【施策の概要】

市民が生涯にわたって楽しめるスポーツ（運動）を提供します。

◇単位施策－０８１１：市民参加型スポーツの推進

－担当課：スポーツ課－

目 的		市民がスポーツ活動に親しみながら、健康的な生活を送る環境を整備します。		
概 要		・スポーツ（運動）に親しむことで、市民が健康で生きがいのある生活が送れるようにします。 ・市民のニーズに合った魅力ある各種スポーツ事業を推進します。		
成 果 指 標	指標名	市主催などの各種スポーツ行事・教室などへの年間参加者数	目標値 (2019年度)	38,000人
	指標設定理由	市主催などの各種スポーツ行事・教室への参加者数が増加することは、市民がスポーツ活動に親しみながら健康的な生活を送っていくことにつながるため。	現状値 (2015年度)	37,000人 (2014年度)
単位施策を 推進する 個別の計画		第２次鈴鹿市スポーツ振興計画		

◇単位施策－０８１２：快適に利用できる運動施設の整備・運営

－担当課：スポーツ課－

目 的		運動施設を整備・充実し，多くの市民の利用を促進します。		
概 要		・運動施設の整備・充実を図ることにより，スポーツ人口の増加や競技力の向上につなげます。 ・地域の活性化に寄与するスポーツの場を提供します。		
成果指標	指標名	運動施設及び学校体育施設開放事業の年間利用者数	目標値 (2019年度)	950,000人
	指標設定理由	年間利用者数の増加は，運動施設が整備・充実され，多くの市民に利用されていることにつながるため。	現状値 (2015年度)	920,000人 (2014年度)
単位施策を推進する個別の計画		第２次鈴鹿市スポーツ振興計画		